事　　項	チューリップ促成栽培のホルモン処理によるブラインド回避技術		
ね　ら　い	チューリップの促成栽培において、ホルモン処理のブラインド抑制効果を検討したところ、その効果が明らかになったので参考に供する。		
指導参考内容	1　ホルモン濃度及び処理の方法 (1)　使用するホルモン剤 ○ジベレリン液剤（商品名：ジベレリン液剤） 有効成分及び成分量　　ジベレリン　0.5% ○ベンジルアミノプリン液剤（商品名：ビーエー液剤） 有効成分及び成分量　　ベンジルアミノプリン　3.0% (2)　混合液の作成方法 ジベレリン液剤30ミリリットル、ベンジルアミノプリン液剤0.83ミリリットルに水を加えて１リットルとし、よく撹拌して混合液を作成する。 (3)　処理方法 混合液を、草丈約10cm時に筒状の葉の中心部に１ミリリットル滴下する。 2　ホルモン処理の効果 (1)　ブラインド発生株の抑制 ジベレリン150ppm＋ベンジルアデニン25ppm(商品として購入する場合は、ベンジルアデノプリン剤）の処理を行うと、ブラインド株率が低下する。 (2)　切り花品質の向上 処理により花弁長、茎長、花丈、草丈及び切り花重が向上し、切り花品質が優れる。		
期待される効果	採花率と切り花品質の向上が図られる。		
利用上の注意事項	1　処理は適期に行う。 2　筒状の葉の中に水がない状態で処理を行う。 3　処理後は灌水を１～２日控える。		
担　　当	フラワーセンター21あおもり 生産技術部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成10年度　フラワーセンター21あおもり試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1　ブラインド株率及び採花率　（平成10年　フラワーセあおもり）

処理濃度	ブラインド株率（%）	採花率（%）
ジベレリン100ppm	41.7	58.3
ジベレリン100ppm＋ベンジルアデニン25ppm	20.8	79.2
ジベレリン150ppm＋ベンジルアデニン25ppm	10.5	89.5
ジベレリン200ppm＋ベンジルアデニン25ppm	29.2	70.8
無処理	75.0	25.0

表2　採花期及び到花日数　（平成10年　フラワーセあおもり）

処理濃度	ブラインド株率（月．日）	採花率（日）
ジベレリン100ppm	1.28	92
ジベレリン100ppm＋ベンジルアデニン25ppm	1.30	94
ジベレリン150ppm＋ベンジルアデニン25ppm	2．3	98
ジベレリン200ppm＋ベンジルアデニン25ppm	1.30	94
無処理	2．2	97

表3　切り花品質　（平成10年　フラワーセあおもり）

処理濃度	花丈（cm）	草丈（cm）	茎長（cm）	花弁長（cm）	葉長（cm）	切り花重（g）
ジベレリン100ppm	41.3	35.4	35.9	6.2	18.5	25.7
ジベレリン100ppm＋ベンジルアデニン25ppm	44.5	36.8	38.6	6.8	18.2	28.6
ジベレリン150ppm＋ベンジルアデニン25ppm	46.8	37.8	38.3	6.9	18.4	29.0
ジベレリン200ppm＋ベンジルアデニン25ppm	42.3	35.8	36.7	6.6	18.4	27.2
無処理	38.1	34.3	33.4	5.8	17.7	22.2

注）草丈：茎の下端から最も上位の葉の上端までの長さ
　　花丈：茎の下端から花弁の上端までの長さ

耕種概要

1　品　　種：ピンクダイヤモンド
2　植え付け時期：平成９年10月28日
3　冷蔵処理：購入球を使用し、８月19日に段階Ⅶ（Hartsema,1961）の花芽形成を確認した後、８月20日より10℃で予冷を開始した。予冷は８月31日で終了し、９月１日より10月24日まで５℃で本冷蔵を行った。
4　栽植様式：角形プランター（600×175×150mm）を使用し、１プランターに24球定植した。
5　栽培用土：ピートモスとくん炭を９：１の割合で混合した用土に、１a当たり成分でN：P_2O_5：K_2O＝1.0kg：1.0kg：1.0kg相当量を混合
6　栽培環境：硬質プラスチックハウス、最低室温15℃

参考

ビーエー剤：506円／10ミリリットル
ジベレリン液剤：694円／40ミリリットル